

クリエイティブ、テクノロジー、ビジネスの三位一体で成功へ導く

P300
PORTFOLIO

RIDE
MEDIA&
DESIGN

RIDE MEDIA&DESIGN 株式会社

<https://www.rmd.co.jp/>

〒153-0061 東京都目黒区中目黒1-3-3
アーバンリゾート代官山 6F・7F
info@rmd.co.jp



総合的なプランニング能力と自社事業で培ったビジネス力が強み

クライアントの課題解決はもちろん、プラスαで共創していけるような提案が得意なRIDE MEDIA&DESIGN。Web制作にEC、メディアコンテンツ制作や運営まで一貫通貫で受けられるだけでなく、自社Webメディア「箱庭」や佐々木俊尚×松浦弥太郎×「灯台もと暮らし」×「箱庭」の共創コミュニティ「SUSONO」、スペシャルティコーヒースタンド「ABOUT LIFE COFFEE BREWERS」の運営など、多様な自社事業で培ったビジネス力を併せ持つのが特徴です。最近では、上流から関わるプロジェクトが増えているそう。「コミュニケーション

プランニングやPR戦略などもご依頼いただく機会が多いです。クリエイティブ、テクノロジー、ビジネスと種々のスキル・知見を持つメンバーがシームレスに活動しているため、サイト制作だけでなくECサイト運用やキャンペーンのインフルエンサーマーケティング、またMD（商品化計画）やノベルティ制作なども選択肢にあがります。何が効果的かを第一に考え、複合的に提案できるのが強みです」と取締役COOの越後雅史さん。また執行役員・Webディレクターの清水圭さんは「受発注関係ではなく、クライアントと苦楽を共にし、寄り添

いながら高みを目指すスタンスです」とも。リピーター企業も多く、回を重ねるごとに任される規模や予算が大きくなり、「困ったら、RIDEに相談してみよう」といった依頼も増えたそう。「複合的な提案ができるので、頼り甲斐を感じてもらえるのだと思います。課題の抽出から横断的に携われると、プロジェクト成功への設計図も描きやすいです」と越後さん。もはや制作会社というカテゴリーに収まらない同社。何を課題と捉えていいかわからない、そんな相談を持ちかけても、想像の上をいく提案が返ってくるのではないのでしょうか。

目指すクリエイティブを体現——機能的で普遍的な美しさが光る心地よいオフィス

代官山の鎗ヶ崎交差点にほど近いオフィスは「普遍的かつ機能性に優れ、美しいクリエイティブ」がテーマ。華美にならず、地に足のついた美しさを意識しています。木を多用し日本のなすつらえが特徴的なミーティングルームは、40名規模のイベントスペースになることも。また、同社が渋谷で運営する「ABOUT LIFE COFFEE BREWERS」のスペシャルティコーヒーが自由に飲める休憩スペースは、部署をこえたアイデアが生まれる場となっています。社内に撮影スタジオも併設しており、多様なオーダーにもフレキシブルに対応できるそうです。



風通しの良い空間を目指し、木材を並べた“見える壁”を起用。ほどよく視界が遮られます。また、イスはイームズ、デスクは完全オリジナルで、クリエイターが働きやすい環境が整えられています

office

社員旅行や「スナックらいど」コミュニケーションもクリエイティブの源に

毎年行われる社員旅行「RIDE TRIP」。キャンプをした年もあれば、和歌山県の熊野古道に行った年もあり、メンバーの大きな楽しみとなっているとのこと。他にも「スナックらいど」と銘打って、文化的な盛り上がりを見せるスナックのイベントを開催。クライアントとの親睦を深めたり、お花見やクリスマスなど社内イベントを開催したり、ユニークなコミュニケーション手法が魅力です。そういった面白い場でインスピレーションを受け、日常のクリエイティブにも反映させる…それが「個を輝かせる」をテーマに掲げる“RIDEらしさ”なのかもしれません。



昨年の社員旅行は沖縄へ。ただの観光ではなく離島の伊計島にステイし、のんびりと過ごしたそう。一泊二日ながら沖縄のパワーを浴びリフレッシュ。メンバーの結束も強まったとのこと

communication

個性溢れるメンバーのアウトプット、本質を突いたクリエイティブ力

“個が輝けるクリエイティブ・クラスカンパニー”という理念を持つ同社では、個々の経験や感性も武器。メンバーの趣味・関心と仕事をうまく掛け合わせて、ユニークでクオリティの高いモノづくりやデザイン、メディア制作を心がけているといいます。「現代では、ネット検索やAIで知識はコモディティ化し、コンテンツやソリューションは方法論を学べばコピーできますよね。しかしクライアントやユーザーのインサイトを掴み、“時代の空気感”をキャッチアップするには、作り手のバックボーンと感性が重要になってくるので簡単には

コピーできません。そういった、サイエンスでは実現できない部分が私たちに求められているのだと感じます」と越後さん。創業当時から得意なライフスタイルやファッション、カルチャー案件の他、食品や精密化学メーカーなど手がける業種も幅広くなりました。「好奇心が強く、未知の業種について能動的に掘り下げるメンバーが多いですね。気づいたらクライアントの社内試験と一緒に受けていたり、商品のファンになってプライベートでもマーケティングをしていたり」と執行役員・プランナーの兼子健一さん。そんな熱意もま

た、クライアント理解を深め、クリエイティブのクオリティに寄与しています。同社のクリエイティブは美しくセンスが良いのが特徴。でも実はそこを目指している訳ではないそう。「私たちの考えるクリエイティブは、ただ美しい、洒落ている、機能的であるということではありません。それは人々の心や身体を健やかにするものなのか、社会の課題解決につながり、サステナブルな世の中を実現できるのか。そんな視点を大事にしています」と清水さん。時代の二歩・三歩先を見据えた同社の今後に期待が高まります。